

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

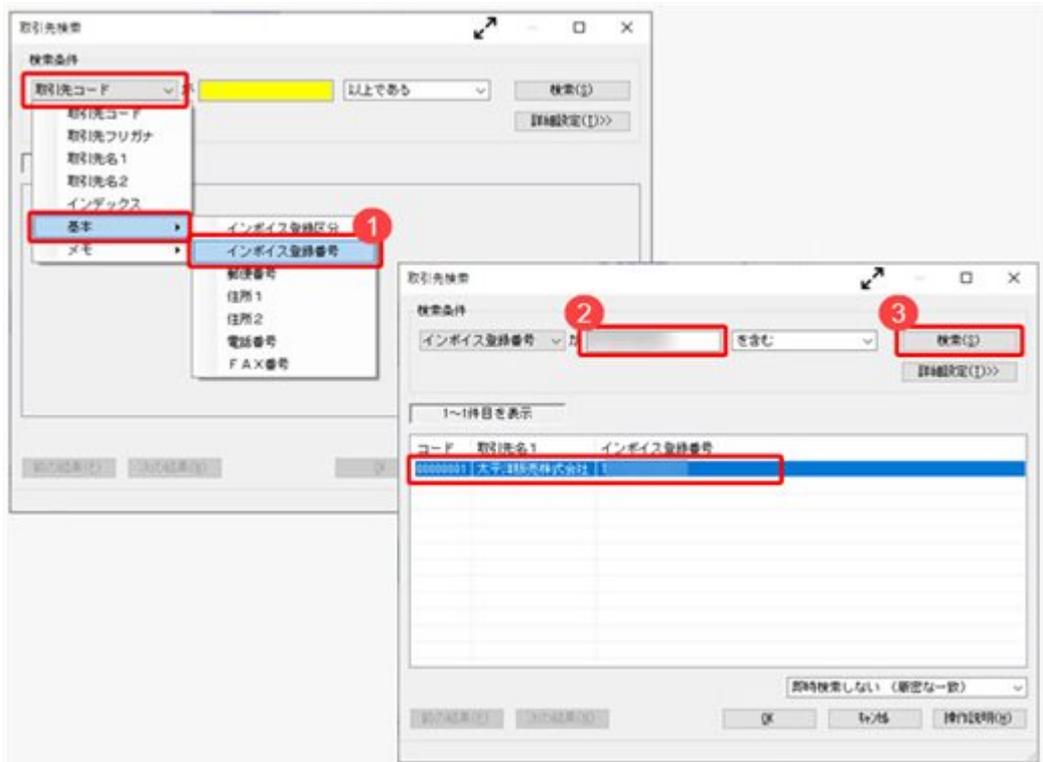
債権管理オプション

< Ver.3.75 / Ver.3.62 >

改正情報

- 令和5年10月1日施行のインボイス制度に関連して追加対応をしました。

[取引先検索]画面で、取引先マスターをインボイス登録番号で絞り込めるようになりました。



《 関連メニュー 》

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューなど、取引先を検索できるすべてのメニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.61 ~ Ver.3.58 >

- **令和5年10月1日施行のインボイス制度に追加対応しました。**

インボイス制度対応において、8月に提供を予定していた項目に対応します。

- ・発行した適格請求書（PDF、紙）の写しを保存する
- ・少額な値引き・返品の適格返還請求書の発行免除に対応する

上記以外の対応内容や詳細は、「インボイス制度運用ガイド」をご参照ください。

「当システムでできること」の「8月提供」で確認できます。

※「インボイス制度運用ガイド」は、セットアップ後に[債権債務管理]-[ヘルプ]-[機能追加／改正情報]メニューで確認できます。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.57 / Ver.3.56 >

- 令和5年10月1日施行のインボイス制度に対応しました。

対応項目は、「インボイス制度運用ガイド」の「当システムの対応ポイント」をご参照ください。

※「インボイス制度運用ガイド」は、セットアップ後に[債権債務管理]-[ヘルプ]-[機能追加／改正情報]メニューで確認できます。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.55 / Ver.3.54 >

債権管理

- 入金消込時の振込手数料や消費税差金とする差額を取引先ごとに設定できるようになりました。

[債権管理]-[入金処理]-[入金消込設定]メニューで、入金消込時の振込手数料や消費税差金とする差額をパターンごとに登録できるようになりました。

登録したパターンは、[導入処理]-[取引先]-[取引先登録]メニューで取引先ごとに設定できます。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.53 >

債権管理

- 請求書の内容をファイルに転送できるようになりました。
＜『債権管理Proオプション』または『債権管理オプション[多通貨対応版]』
をお使いの場合＞

[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー・[債権管理]-[請求締処理]-[請求書再発行]メニューで、請求書の内容をファイルに転送できます。

転送する場合は、[条件設定]画面の[基本設定]ページにある請求書発行方法で「転送」を選択します。

転送時の出力先ファイル名や作成形式は、[出力設定2]ページで設定します。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.52 / Ver.3.51 >

【債権管理】	
仕訳伝票から債権伝票にジャンプして内容を確認できるようになりました。	2

債権管理

- 仕訳伝票から債権伝票にジャンプして内容を確認できるようになりました。

[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューなどで登録した債権伝票から自動作成された仕訳伝票（メインメニューの[仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー）で、もともっている債権伝票にジャンプして内容を確認できます。



債権伝票にリンクされている証憑ファイルを確認する場合などに便利です。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.52 / Ver.3.51 >

目次

【債権管理】	
仕訳伝票から債権伝票にジャンプして内容を確認できるようになりました。	2

債権管理

- 仕訳伝票から債権伝票にジャンプして内容を確認できるようになりました。

[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューなどで登録した債権伝票から自動作成された仕訳伝票（メインメニューの[仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー）で、もともっている債権伝票にジャンプして内容を確認できます。



債権伝票にリンクされている証憑ファイルを確認する場合などに便利です。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.31 / Ver.3.30 >

【債権管理】	
納品書で、税率ごとの「消費税額」と「課税対象額」を枠外に印字できるようになりました。	2
請求書で、「非課税等対象額」の印字や、欄外への税率ごとの消費税額の印字ができるようになりました。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞ ＜『債権管理オプション[多通貨対応版]』をお使いの場合＞	2
請求書発行の一覧確認画面・請求一覧表に、税率ごとの「税抜御買上額」と「消費税額等」を出力できるようになりました。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞ ＜『債権管理オプション[多通貨対応版]』をお使いの場合＞	3
個別入金消込・相殺消込時に、債権伝票の「売上金額」や「税率」などを出力できるようになりました。	3
請求先元帳の債権明細に、相手明細の金額や税率などを表示できるようになりました。	4
請求先元帳で、各計行に「税抜金額・消費税」「税率ごとの計行」を出力できるようになりました。	4
伝票履歴メニューで、債権伝票の「売上金額」や「税率」などを出力できるようになりました。	5
与信残高一覧表で、グループ間消込をした手形の残高を集計する方法を変更できるようになりました。	5

- 納品書で、税率ごとの「消費税額」と「課税対象額」を枠外に印字できるようになりました。

[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票入力]メニューで納品書を印刷する際に、税率ごとの消費税額と課税対象額を枠外に印字できるようになりました。

印字する場合は、[債権伝票入力 - 印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページで「税率ごとの消費税額を枠外に印字する」にチェックを付けます。

※この機能追加に伴い、[詳細設定]ページの「税率ごとの消費税額を印字する」は「税率ごとの消費税額を明細に印字する」に名称が変更されました。

- 請求書で、「非課税等対象額」の印字や、欄外への税率ごとの消費税額の印字ができるようになりました。

＜『債権管理Proオプション』または『債権管理オプション[多通貨対応版]』をお使いの場合＞

明細請求書・伝票請求書に、【御買上額合計】の内訳として、「非課税等対象額」を印字できるようになりました。

また、税率ごとの消費税額を鑑や枠外に印字できるようにもなりました。

印字する場合は、[条件設定]画面の[出力設定]ページで [出力項目...] ボタンをクリックし、[明細請求書・伝票請求書]ページで、以下のように設定します。

○非課税等対象額を印字する場合は、「非課税等対象額」で「印字する」を選択します。

○税率ごとの消費税額を欄外に印字する場合は、「税率ごとの消費税額（欄外）」で「鑑に印字する」または「枠外に印字する」を選択します。

「枠外に印字する」を選択すると、消費税額は請求書1ページ目の枠外の右下に印字されます。

※この機能追加に伴い、[明細請求書・伝票請求書]ページの「税率ごとの消費税額」は「税率ごとの消費税額（明細）」に名称が変更されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書再発行]メニュー

- 請求書発行の一覧確認画面・請求一覧表に、税率ごとの「税抜御買上額」と「消費税額等」を出力できるようになりました。

＜『債権管理Proオプション』または『債権管理オプション[多通貨対応版]』をお使いの場合＞

[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューの一覧確認画面と、[債権管理]-[請求締処理]-[請求一覧表]メニューに、「税抜御買上額」や「消費税額等」の税率ごとの項目を印字できるようになりました。

- [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューの場合は、[請求書発行 - 条件設定]画面の[出力設定]ページに追加された出力項目設定で、設定します。
また、これに伴い、[出力設定]ページに出力項目設定が追加され、一覧確認画面に表示するその他の項目についても、出力の有無や並び順を設定できるようになりました。

- [債権管理]-[請求締処理]-[請求一覧表]メニューの場合は、[請求一覧表 - 条件設定]画面の[出力設定]ページの出力項目設定で設定します。

※ Ver. 3.29以前のバージョンで請求書発行済みの履歴は、今回追加された項目は空欄で出力されます。

税率ごとの金額を出力する場合は、[債権管理]-[請求締処理]-[請求締取消]メニューで請求締を取り消し、[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューで請求書を発行しなおします。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求一覧表]メニュー

- 個別入金消込・相殺消込時に、債権伝票の「売上金額」や「税率」などを出力できるようになりました。

- [債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニューや[債権管理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニューで、債権伝票の以下の項目を出力できるようになりました。

税処理／税率／売上金額／消費税金額／売上金額（国内）／消費税金額（国内）
出力する場合は、[条件設定]画面の[項目選択]ページで債権伝票の出力項目を設定します。

これに伴い、[債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニューでは、以下の機能も追加されました。

- ・ [項目選択]ページで設定できる債権伝票の出力項目の数が増えて、最大4個から最大8個になりました。
- ・ 設定した出力項目は印刷・転送時にも出力されます。
- ・ 転送時に[個別入金消込 - 転送条件設定]画面の[詳細設定]ページで「税率種別を出力する」にチェックを付けると、税率種別も出力できます。

※ 「売上金額（国内）」 「消費税金額（国内）」は、『債権管理オプション[多通貨対応版]』をお使いの場合に出力できます。

○[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込]メニューで、債権伝票と債務伝票の以下の項目を表示できるようになりました。

- ・債権伝票
税処理／税率／売上金額／消費税金額
- ・債務伝票
税処理／税率／購入金額／消費税金額

出力する場合は、[相殺消込 - 条件設定]画面の[項目選択2]ページで設定します。

《 関連メニュー 》

- ・[債権管理]-[入金処理]-[個別入金消込]メニュー
- ・[債権管理]-[入金処理]-[入金消込修正]メニュー
- ・[債権管理]-[相殺処理]-[相殺消込]メニュー

- **請求先元帳の債権明細に、相手明細の金額や税率などを表示できるようになりました。**

[債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニューで、債権明細に、相手明細の以下の項目を表示できます。

部門／勘定科目／補助科目／セグメント1・2／プロジェクト・サブプロジェクト／
税込金額／消費税／税処理／税率／税区分

また、値引の入金明細に税率を表示することもできます。

表示する場合は、[請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「売上情報表示」を「する」にします。

※セグメント1・セグメント2は、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。

※プロジェクト・サブプロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。

《 関連メニュー 》

- ・[債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニュー

- **請求先元帳で、各計行に「税抜金額・消費税」「税率ごとの計行」を出力できるようになりました。**

[債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニューで、各計行（伝票合計・月計・取引先グループ計・最後の合計）に、「税抜金額・消費税」「税率ごとの計行」を出力できるようになりました。

出力する場合は、[請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページで設定します。

※この機能追加に伴い、[表示設定]ページの「伝票計行表示」「月計行表示」「取引先グループ計表示」「最後の合計行表示」は、各計行の設定の「計行表示」へと名称が変更されました。

また、転送時に[請求先元帳 - 転送条件設定]画面の[詳細設定]ページで「税率種別を出力する」にチェックを付けると、税率種別も出力できます。

《 関連メニュー 》

- ・[債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニュー

- 伝票履歴メニューで、債権伝票の「売上金額」や「税率」などを出力できるようになりました。

[債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニューや[債権管理]-[履歴管理]-[入金伝票履歴]メニューで、債権伝票の以下の項目を出力できるようになりました。

税処理／税率／売上金額／消費税金額／売上金額（国内）／消費税金額（国内）
出力する場合は、[条件設定]画面の[項目選択]ページで債権伝票の出力項目を設定します。

また、転送時に[転送条件設定]画面の[詳細設定]ページで「税率種別を出力する」にチェックを付けると、税率種別も出力できます。

※「売上金額（国内）」「消費税金額（国内）」は、『債権管理オプション[多通貨対応版]』をお使いの場合に出力できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[債権伝票履歴]メニュー
- ・ [債権管理]-[履歴管理]-[入金伝票履歴]メニュー

- 与信残高一覧表で、グループ間消込をした手形の残高を集計する方法を変更できるようになりました。

グループ間消込をした受取手形、ファクタリング債権、電子記録債権の残高を[債権管理]-[管理帳票]-[与信残高一覧表]メニューの手形債権残高で確認する場合に、いままでは、消し込んだ各請求先の手形債権残高に集計されていました。
これからは、振出元の請求先の手形債権残高に集計することもできるようになりました。

▼例

以下の債権について、A社（本社）から20万円の手形を受領し、消込をした場合

債権：10万円 B社（子会社）

債権：10万円 C社（子会社）

振出元の請求先の手形債権残高に集計する場合は、以下のように集計されます。

- ・ A社（本社） 手形債権残高：20万円
- ・ B社（子会社） 手形債権残高： 0円
- ・ C社（子会社） 手形債権残高： 0円

振出元の請求先の手形債権残高に集計する場合は、[詳細条件]ページで「手形が発生した請求先に集計する」にチェックを付けます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[管理帳票]-[与信残高一覧表]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.29 / Ver.3.28 >

目次

【改正情報】	
新元号(改元)に対応しました。	2

- **新元号(改元)に対応しました。**

改元日2019年5月1日以後の日付から、新元号の日付に切り替わります。

○日付の入力では、暦表示が和暦の場合に、入力月にしたがって元号の表示が切り替わります。

※4月までは「平成」に、5月からは新元号の表示に切り替わります。

平成 31年5月 → 新元号 1年5月

新元号 1年4月 → 平成 31年4月

○画面表示や印刷、転送・汎用データ作成では、暦表示が和暦の場合に改元日以後は新元号で出力されます。

○汎用データ受入では、「日付」項目の書式が和暦形式の場合に、改元日以後は新元号の日付で受け入れできます。

※なお、改元日以後に「平成」の日付のままでも受け入れできます。

例) 「平成31年5月」は「新元号1年5月(2019年5月)」として受入

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.27 >

【改正情報】	
消費税10%への対応	2
軽減税率制度への対応	2
区分記載請求書等保存方式への対応	2
汎用データ受入の対応	2
【導入処理】	
[手形機能設定]メニューで、ファクタリング債権、電子記録債権の【手数料仕訳設定】の部門の選択肢が変更されました。	3
【債権管理】	
債権伝票の仕訳伝票を部門ごとに集約して作成する場合に、並び順に部門コード順が加味されるようになりました。	3
請求書発行済みでも、受取手形、ファクタリング債権、期日現金、電子記録債権を修正できるようにしました。 <div style="text-align: right;"><『債権管理Proオプション』をお使いの場合></div>	3

● 消費税10%への対応

- 取引日付にもとづいた税率の自動判定
取引の日付にあわせて税率を自動判定し、税率改定後もミスなくスムーズに入力できます。
- 旧税率8%（取引先に合わせる場合や経過措置の取引）の計上
前回の8%への改定と同様に、今回も経過措置が設けられています。
伝票起票時に税率を8%に変更できます。
- アラート機能により入力ミスを未然に防止
施行日をまたいで伝票を複写・修正した場合に、確認メッセージが表示され、適切な税率を適用できます。

● 軽減税率制度への対応

- 勘定科目・補助科目の税率種別をもとに税率を初期表示します。
軽減税率用の債権区分を登録することで、債権伝票では債権区分を選択するだけで、軽減税率の取引を迷わず起票できます。
※軽減税率の対象となる品目は、国税庁のホームページを参照

● 区分記載請求書等保存方式への対応

- 軽減税率の実施に伴い、税率ごとの区分を記載した請求書等（区分記載請求書等）の発行が必要になります。
請求書・納品書で、以下の内容が出力できます。
 - ・軽減税率の対象の商品明細に軽減フラグ（「軽」）
 - ・税率ごとに区分した税抜価額の合計額および消費税額等

● 汎用データ受入の対応

- 新税率10%に対応
- 軽減税率品目の取引用に、受入項目「税率種別」を追加

「消費税10%・軽減税率対応 運用ガイド」に、運用に関する一連の操作手順をまとめています。

最初に目次を参照して、必要な箇所をご確認ください。

※「消費税10%・軽減税率対応 運用ガイド」は、『操作説明（ヘルプ）』の「機能追加／改正情報」から参照できます。

導入処理

- [手形機能設定]メニューで、ファクタリング債権、電子記録債権の【手数料仕訳設定】の部門の選択肢が変更されました。

ファクタリング債権（[ファクタリング債権]-[ファクタリング仕訳設定]ページで設定）

変更前	変更後
0：その他 1：ファクタリング情報 2：固定	0：その他 1：入金明細（選択肢の名称が変更されました。セットされる部門に変更はありません。） 2：固定 3：ファクタリング債権（選択肢が追加されました。）

電子記録債権（[電子記録債権]-[仕訳設定]ページで設定）

変更前	変更後
0：その他 1：電子記録債権情報 2：固定	0：その他 1：入金明細（選択肢の名称が変更されました。セットされる部門に変更はありません。） 2：固定 3：電子記録債権（選択肢が追加されました。）

債権管理

- 債権伝票の仕訳伝票を部門ごとに集約して作成する場合に、並び順に部門コード順が加味されるようになりました。

[債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニューで債権伝票を承認し、部門ごとに集約して仕訳伝票を作成する場合に、作成される仕訳伝票の並び順に部門コードが加味されるようになりました。

▼例

[債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[仕訳伝票作成設定]ページが以下の場合
作成単位 1：日付単位
部門別の集約 1：する

仕訳伝票は、以下の並び順で作成されます。

変更前	変更後
伝票日付順→登録順	伝票日付順→部門コード順→登録順

- 請求書発行済みでも、受取手形、ファクタリング債権、期日現金、電子記録債権を修正できるようになりました。

<『債権管理Proオプション』をお使いの場合>

請求書発行済みの場合でも、振替日付などを修正できるようになりました。

入金情報に影響する項目は、今までどおり修正できません。

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-（[電子記録債権処理]-） [電子記録債権入力]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro オプション

債権管理オプション [多通貨対応版]

債権管理オプション

< Ver.3.23 / Ver.3.22 >

目次

【導入処理】	
[取引先登録]メニューで、振込依頼人名（カナ）に入力を許可する半角文字を任意に指定できるようにになりました。	2

- [取引先登録]メニューで、振込依頼人名（カナ）に入力を許可する半角文字を任意に指定できるようになりました。

今まで制御できなかった、「%」「@」などの文字も制御できるようになりました。
制御する場合は、[取引先登録 - 設定]画面の[カナ設定]ページで、設定方法を「編集する」に設定し、「入力を許可する半角文字」を編集します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先データ受入]-[取引先データ受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入（債権債務）]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.3.20 / Ver.3.13 / Ver.3.12 >

目次

【全般】	
請求書の御入金額を消込基準で集計する場合に、前受金も消込基準で集計できるようになりました。 ＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞	2
【債権管理】	
[回収予定変更]メニューで、部門など、伝票明細の項目で債権伝票を検索できるようになりました。	2
仕訳伝票の伝票No.を手入力で付番している場合に、受取手形、ファクタリング債権、電子記録債権の伝票No.だけを変更できるようになりました。	3

- 請求書の御入金額を消込基準で集計する場合に、前受金も消込基準で集計できるようになりました。

＜『債権管理Proオプション』をお使いの場合＞

いままでは、御入金額の集計基準（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページで設定）が「1：消込基準」の場合でも、前受金は、ステータスが「4：前受金」の入金情報や、仮受金を次月充当した内容をもとに集計されていました。

これからは、前受金も入金消込をした内容をもとに集計できるようになりました。

これにより、請求書を請求先単位で発行している取引先グループで、入金取引先グループでまとめて入金される場合でも、各請求先の請求書に前受金の入金を計上できるようになります。

※御入金額の集計基準の「1：消込基準」は、名称が「1：消込基準（前受金は発生時に集計）」に変更されました。

新しく追加された「2：消込基準」を選択すると、前受金も入金消込をした内容をもとに集計できます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[入金伝票データ作成]メニュー

- [回収予定変更]メニューで、部門など、伝票明細の項目で債権伝票を検索できるようになりました。

表示単位（[回収予定変更 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで設定）を「債権伝票」にして回収予定を変更する場合に、部門などの伝票明細の項目を指定して変更対象の債権伝票を検索できるようになりました。

※伝票明細の検索条件は、[回収予定変更 - 条件設定]画面の[詳細条件2]ページで設定できます。

※この変更に伴い、いままでのページ名が以下のとおり変更されました。

- ・ [基本設定]ページ→[基本条件]ページ
- ・ [詳細設定]ページ→[詳細条件]ページ

※『債権管理Proオプション』をお使いの場合は、回収予定確定基準（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページで設定）が「1：伝票単位」の場合の機能追加です。

- 仕訳伝票の伝票No.を手入力で付番している場合に、受取手形、ファクタリング債権、電子記録債権の伝票No.だけを変更できるようになりました。

仕訳伝票の伝票No.の付番方法（メインメニューの[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）が「2：手入力」の場合に、いままでは、仕訳伝票に反映する項目を変更した時だけ[仕訳伝票No.入力]画面が表示されて、伝票No.を再付番することができました。

これからは、修正登録時に[仕訳伝票No.入力]画面を表示するかどうかを設定できるようになり、[仕訳伝票No.入力]画面を表示する場合は、伝票No.だけを変更できるようになりました。

※[仕訳伝票No.入力]画面を表示するかどうかは、（[F3]キー）を押して表示される[設定]画面の「修正登録時の仕訳伝票No.入力の表示」で設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権入力]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.3.08 >

【全般】	
[回収方法登録]メニューで、セグメントやプロジェクト、工事などのマスターを設定できるようになりました。	2
[入金情報登録]メニューで、手形の郵送料を入力できるようになりました。	2
回収種別が値引の時に、[入金情報登録]メニューで税率を指定して登録し、請求書に印字できるようになりました。	3
回収予定表や滞留債権年齢表などの帳票で、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できるようになりました。	3
【導入処理】	
[債権債務機能設定]メニューの伝票分割時調整科目の設定が廃止されました。	4
【債権管理】	
[債権データ抽出]メニューで、伝票の詳細な並び順指定や金額での検索ができるようになりました。	4
明細請求書に調整額の明細を集計できるようになりました。	4
消込対象として複数の入金情報がある場合に、表示される[入金情報選択]画面の出力項目を選択できるようになりました。	5
受取手形、ファクタリング債権、期日現金[債権]、電子記録債権から作成するてん末処理仕訳の債権明細を修正できるようになりました。	5
定期的に滞留債権年齢表を集計し、その出力項目が事前に設定した「しきい値」を超えていた場合に、自動的にアラート通知できるようになりました。	6
【随時処理】	
[科目別マスター入力設定]メニューで設定した内容を、汎用データを受け入れるときに反映させるか設定できるようになりました。	6

- [回収方法登録]メニューで、セグメントやプロジェクト、工事などのマスターを設定できるようになりました。

[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの[基本]ページで、セグメント1・セグメント2・プロジェクト・サブプロジェクト・工事・工種を設定できるようになりました。

これからは、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューや[債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニューなどの上記マスターの入力項目に、[回収方法登録]メニューで設定したマスターが、初期値としてセットされるようになります。

※セグメント1・セグメント2は、『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合に使用できるマスターです。

※プロジェクト・サブプロジェクトは、『勘定奉行[個別原価管理編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。

※工事・工種は、『勘定奉行[建設業編]』をお使いの場合に使用できるマスターです。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [導入処理]-[残高入力]-[前受金残高入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[FB入金処理]-[FB入金情報作成]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[仮受金振替]メニュー
 - ※『債務管理Proオプション』『債務管理オプション』をお使いの場合に、振替区分で「4：返金[振込]」を選択している場合は、[導入処理]-[決済方法登録]-[支払方法登録]メニューで設定した各マスターを初期表示します。
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-([電子記録債権処理]-) [電子記録債権入力]メニュー

- [入金情報登録]メニューで、手形の郵送料を入力できるようになりました。

いままでは、回収種別（[回収方法登録]メニューの[基本]ページで設定）が「3：手形」の場合は、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニュー上で郵送料を手入力できませんでした。

これからは、回収種別が「3：手形」の場合にも、[入金情報登録]メニューの「手数料等」に郵送料を手入力できます。

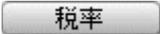
これにより、回収種別が「3：手形」の場合に、例えば以下のようなことができるようになりました。

- ・ 消込時に、[入金情報登録]メニューで登録した郵送料も含めて消し込めます。
- ・ 各帳票メニューや各伝票履歴メニューなどの郵送料に、[入金情報登録]メニューで登録した郵送料も含めて確認できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[入金情報データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[入金情報データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[入金伝票データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行入金情報データ作成]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行入金情報データ受入]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）

- 回収種別が値引の時に、[入金情報登録]メニューで税率を指定して登録し、請求書に印字できるようになりました。

いままでは、[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで税率の指定はできませんでしたが、これからは、回収方法の回収種別（[回収方法登録]メニューの[基本]ページで設定）が「5：値引」の時に、税率を指定できるようになりました。入金金額を選択し、（[F1]キー）を押して税率を指定します。[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューで税率ごとの消費税額（[請求書発行 - 出力項目]画面で設定）が「印字する」の場合は、回収種別が「5：値引」の明細の税率も含めて印字できます。

また、以下のことができるようになりました。

- ・ 回収種別が「5：値引」の入金情報を消し込む際に、[入金情報登録]メニューで登録した税率で入金伝票を作成できます。
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[入金情報データ作成]メニューで出力される項目に、「税率」項目が追加されました。また、[随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[入金情報データ受入]メニューで、税率を指定して受け入れることができます。
- ・ [随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[入金伝票データ作成]メニューで出力される税率に、[入金情報登録]メニューで登録した税率を出力できます。

- 回収予定表や滞留債権年齢表などの帳票で、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できるようになりました。

以下のような運用の場合、集計条件のマスターコードを次回以降も固定すると、便利です。

- ・ 常に、確認するマスターが固定の場合
- ・ 常に、集計範囲が固定のマスターと、毎回変更するマスターが混在している場合
または常に、集計範囲が固定のマスターと、全範囲のマスターが混在している場合

コード保存の具体的な利用方法は、操作説明の「集計条件のマスターコードを、次回以降も固定する」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[管理帳票]-[回収予定表]メニュー
- ・ [債権管理]-[管理帳票]-[滞留債権年齢表]メニュー
- ・ [債権管理]-[管理帳票]-[債権残高一覧表]メニュー

導入処理

- **[債権債務機能設定]メニューの伝票分割時調整科目の設定が廃止されました。**

伝票承認時に伝票分割時調整科目を使用しなくなったため、[入金科目設定]ページにあった伝票分割時調整科目の設定が廃止されました。

これに伴い、今まで伝票分割時調整科目として使用するために登録していた勘定科目がある場合は、メインメニューの[導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニューで削除できるようになりました。

債権管理

- **[債権データ抽出]メニューで、伝票の詳細な並び順指定や金額での検索ができるようになりました。**

[債権管理]-[売上債権処理]-[債権データ抽出]メニューで、[債権データ抽出 - 条件設定]画面の[詳細条件]ページの検索対象に「金額」が追加され、金額で伝票を検索できるようになりました。

また、[債権データ抽出 - 条件設定]画面の[出力順]ページで画面上の仕訳明細の並び順を詳細に指定できるようになりました。

これにより、仕訳伝票リスト（メインメニューの[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー）と債権データ抽出画面の伝票の並び順を同一にすることができるようになったため、仕訳伝票リストを確認しながら債権データを抽出しやすくなりました。

仕訳伝票リストと同一の並び順で債権データ抽出画面に伝票を表示する詳細な手順は、[債権データ抽出 - 条件設定]画面の[出力順]ページの操作説明をご確認ください。

- **明細請求書に調整額の明細を集計できるようになりました。**

[請求書発行 - 出力項目]画面の[明細請求書]ページで、調整額の明細集計を「する」に設定します。

《 関連メニュー 》

- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニュー
- ・ [債権管理]-[請求締処理]-[請求書再発行]メニュー

- 消込対象として複数の入金情報がある場合に、表示される[入金情報選択]画面の出力項目を選択できるようになりました。

[債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー、[債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニューでの消込時に、消込対象として複数の入金情報がある場合に表示される[入金情報選択]画面の出力項目は、いままでは設定することができませんでした。

これからは、[項目選択]ページで出力する項目や並び順を変更できるようになりました。

※出力項目は、[条件設定]画面の[項目選択]ページで選択できます。

また、いままで取引先グループ表示（[締単位入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページ、[一括入金消込 - 条件設定]画面の[表示設定]ページで設定）が「表示する」で、[入金情報選択]画面上でも取引先グループコード・取引先グループ名を確認していた場合は、今回の機能追加に伴い、[項目選択]ページで新たに「選択済項目」に設定する必要があります。

※いままでは、取引先グループ表示が「表示する」の場合は、[入金情報選択]画面に取引先グループコード・取引先グループ名が必ず表示されていました。

- 受取手形、ファクタリング債権、期日現金[債権]、電子記録債権から作成するてん末処理仕訳の債権明細を修正できるようになりました。

てん末処理仕訳の債権明細が修正できるようになり、債権明細を分割したり、科目を変更することができるようになりました。

例えば、複数の異なる部門の債権に対して、1枚の受取手形でまとめて入金があった場合に、債権明細をそれぞれの部門ごとに分割しててん末処理仕訳を作成できます。

以下の場合に債権明細を修正できます。

- ・てん末管理のみ行う場合で、てん末が「手許」の場合

<受取手形のみ>

- ・てん末が「裏書」「返却」の場合

<ファクタリング債権、期日現金[債権]のみ>

- ・てん末が「譲渡」「返却」の場合

<電子記録債権のみ>

- ・てん末が「譲渡」「取消」の場合

《 関連メニュー 》

- ・[債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・[債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・[債権管理]-([電子記録債権処理]-)[電子記録債権入力]メニュー

- 定期的に滞留債権年齢表を集計し、その出力項目が事前に設定した「しきい値」を超えていた場合に、自動的にアラート通知できるようになりました。

今まで手動で[債権管理]-[管理帳票]-[滞留債権年齢表]メニューを集計し、目視で行っていた特定の項目の「しきい値」チェックを、スケジュールを組んで自動化することで、確認の手間から解放され、定型業務の効率化と作業漏れ防止を実現します。

[滞留債権年齢表 - 条件設定]画面に [アラート設定] ボタンが表示され、条件を設定します。

スケジュールでチェックの頻度や時刻を設定できるため、いち早く兆候に気づき、その後の対応につなげることができます。

なお、以下の通知方法から選択できます。

- ・メール
- ・「奉行Myスペース」のお知らせへの登録
- ・「奉行Linkitサービス」のメッセージ

操作説明の「アラートとは」をご参照ください。

※「奉行Myスペース」のお知らせへの登録や「奉行Linkitサービス」のメッセージは、「OMSS」にご加入の場合に使用できます。

随時処理

- [科目別マスター入力設定]メニューで設定した内容を、汎用データを受け入れるときに反映させるか設定できるようになりました。

マスターの未入力を防ぐために、メインメニューの[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[科目別マスター入力設定]メニューで設定した内容を、債権残高や債権伝票の汎用データを受け入れるときにも反映させるか設定できるようになりました。

[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで、マスターの未入力チェックを「1：汎用データ受入も含む」に設定します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[残高データ受入]-[債権残高データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[債権伝票データ受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行債権伝票データ受入]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.3.07 >

【債権管理】

処理の取り消し時に、受取手形、ファクタリング債権、電子記録債権の各処理で作成済みの仕訳を参照できるようになりました。

それに伴い、[入金伝票]（[F8] キー）が追加されました。

【操作方法】

[基本条件]ページの処理選択で取消を選択し、[画面] ボタンをクリックします。

[入金伝票]（[F8] キー）を押して仕訳を参照します。

【関連メニュー】

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-（[電子記録債権処理]-）[電子記録債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-（[電子記録債権処理]-）[電子記録債権一括決済]メニュー

受取手形、ファクタリング債権、電子記録債権の各処理で作成済みの仕訳を、リスト形式で印刷できるようになりました。

【操作方法】

各メニューの [入金伝票]（[F8] キー）を押すと開く [入金伝票] 画面で、[印刷]（[F2] キー）を押します。

[印刷条件設定]画面が開きますので、印刷条件を設定して [印刷] ボタンをクリックします。

【関連メニュー】

- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[受取手形処理]-[受取手形一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-[ファクタリング処理]-[ファクタリング債権一括決済]メニュー
- ・ [債権管理]-（[電子記録債権処理]-）[電子記録債権入力]メニュー
- ・ [債権管理]-（[電子記録債権処理]-）[電子記録債権てん末変更]メニュー
- ・ [債権管理]-（[電子記録債権処理]-）[電子記録債権一括決済]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.3.04 >

<p>【全般】</p> <p>消込調整額を6つまで使用できるようになりました。 ※詳細は、操作説明の「消費税差金・消込調整額」をご参照ください。</p> <p>『商奉行』と連動できるようになり、以下のメニューが追加されました。 『商奉行』で作成した売上傳票データを当システムの債権伝票として受け入れたり、当システムの入金情報をもとに『商奉行』の入金伝票データを作成できるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[連動初期設定]メニュー ・ [随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[売上傳票データ受入]メニュー ・ [随時処理]-[商蔵奉行連動]-[債権債務管理]-[入金伝票データ作成]メニュー <p style="text-align: right;">< 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 ></p>
<p>[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページの回収予定確定基準が「0：請求書単位」の設定で分割回収する場合に、分割した回収予定金額の端数処理ができるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューの[請求先回収]ページの「端数処理」「端数処理額」</p> <p>【関連メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニュー ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニュー ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引先データ作成]-[取引先データ作成]メニュー ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先データ受入]-[取引先データ受入]メニュー ・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行取引先データ作成]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合） ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入（債権債務）]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合） <p style="text-align: right;">< 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 ></p>
<p>合計を表示するかを設定できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】 [条件設定]画面の[表示設定]ページの「合計表示」</p> <p>【関連メニュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー ※この機能追加に伴い、[表示設定]ページが追加されました。 ・ [債権管理]-[入金処理]-[締単位入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[一括入金消込]メニュー ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー
<p>【導入処理】</p>
<p>◀債権区分登録▶</p>
<p>[請求支払設定]ページの参照明細区分に「1：返品」が追加されました。</p>

【関連メニュー】

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引区分データ作成]-[債権区分データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引区分データ受入]-[債権区分データ受入]メニュー

《商品登録》

[基本]ページの明細区分が「0：一般商品」の場合に、返品用の債権区分が設定できるようになりました。

【設定箇所】

[属性]ページの「債権区分-返品」

【関連メニュー】

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[商品データ作成]-[商品データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[商品データ受入]-[商品データ受入]メニュー

[属性]ページには、債権区分の貸方-売上科目の税区分、税込区分が表示されていましたが、表示されなくなりました。

[単位]ページが追加され、[属性]ページの以下の項目が[単位]ページに移動しました。

- ・ 単位
- ・ 単価小数
- ・ 数量小数

【債権管理】

《債権伝票入力》

[導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニューの[基本]ページの商品の明細区分が「0：一般商品」の場合に、[導入処理]-[取引区分登録]-[債権区分登録]メニューの[請求支払設定]ページの参照明細区分が「1：返品」の債権区分を入力できるようになりました。

【関連メニュー】

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[債権データ作成]-[債権伝票データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[債権データ受入]-[債権伝票データ受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行債権伝票データ作成]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）
- ・ [自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行債権伝票データ受入]メニュー（『自動実行管理オプション』をお使いの場合）

《マイナス債務振替》

[導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニューの[基本]ページの商品の明細区分が「0：一般商品」の場合に、[導入処理]-[取引区分登録]-[債権区分登録]メニューの[請求支払設定]ページの参照明細区分が「1：返品」の債権区分を入力できるようになりました。

《債権伝票承認》

債権伝票を承認する際に、部門ごとに集約して仕訳伝票を作成できるようになりました。

【設定箇所】

[債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[仕訳伝票作成設定]ページの「部門別の集約」

《債権データ抽出》

メインメニューの[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページの「摘要の貸借別の入力」が「1：する」の場合に、作成する債権伝票の摘要に仕訳明細の債権

<p>科目の摘要をセットできるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権データ抽出 - 条件設定]画面の[表示方法]ページの「債権科目の摘要を表示する」 <『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合></p>
<p>《回収予定変更》</p>
<p>[条件設定画面の変更]</p>
<p>[基本設定]ページで、請求先の範囲指定や個別指定ができるようになりました。</p>
<p>回収予定の並び順が詳細に設定できるようになりました。</p> <p>※この機能追加に伴い、[出力順]ページが追加され、[出力設定]ページの「並び順」は[出力順]ページで設定するようになりました。</p>
<p>[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページの回収予定確定基準が「0：請求書単位」の場合にも、[出力設定]ページが追加されました。</p>
<p>[出力設定]ページで、表示する請求先名を「請求先名1」「請求先名2」「請求先名1・2」「請求先略称」から選択できるようになりました。</p>
<p>[出力設定]ページの出力項目に、「請求先」が必須項目として追加されました。</p> <p>※この機能追加に伴い、画面の見出し部分に請求先コードや請求先略称が表示されなくなりました。</p>
<p>[メイン画面の変更]</p>
<p>[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページの回収予定確定基準が「0：請求書単位」の場合に、画面に「対象」列が追加されました。</p>
<p>[回収予定変更 - 一括変更]画面が変更になり、回収予定を一括変更する際の操作方法が変更されました。</p> <p>※詳細は、操作説明の「複数の回収予定日・回収方法を一括で変更する」をご参照ください。</p>
<p>Windowsファンクション</p> <p>[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページの回収予定確定基準が「0：請求書単位」の場合に、以下のキーが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [一括変更] ([F 3] キー) ・ [全選択] ([F 5] キー) ・ [全解除] ([F 6] キー)
<p>回収予定を選択する際に、以下のようなキーボード操作ができるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながら行を選択する ⇒複数の回収予定を一度に選択 ・ [Ctrl]キーと[A]キーを同時に押す ⇒すべての回収予定を選択 ・ 選択した状態で[Space]キーを押す ⇒選択中の回収予定すべてにチェックを付ける
<p>《入金情報登録》</p>
<p>[印刷の変更]</p>
<p>複数ページの印刷順序の設定が追加されました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[入金情報登録 - 印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページの「複数ページの印刷順序」</p>
<p>[項目選択]ページで設定した項目を印刷できるようになりました。</p> <p>今までの固定のレイアウトで印刷する場合には、[入金情報登録 - 印刷等条件設定]画面の</p>

[基本設定]ページの「固定レイアウトで印刷する」にチェックを付けます。
《個別入金消込》
[印刷の変更]
[項目選択]ページで第一項目に金額を選択した場合に、いままでは小計・合計行の項目名が非表示になっていましたが、これからは全体の列を自動的に右にずらし、最左列に小計・合計の項目名が出力されるようになりました。
《請求先元帳》
計行の段数が1段になりました。 また、計行を薄紫色で表示して、計行ごとに太線を表示するように変更されました。
Office連携サービスの以下の機能に対応しました。 ○PDF出力機能 元帳の印刷物を、PDFファイルとして出力できます。 ※詳細は、操作説明の「集計結果をPDFに出力する」をご参照ください。 ○ダイレクト出力機能（クイックメニュー） 画面表示した元帳を、クイックメニューからワンタッチでダイレクト印刷できます。 ※詳細は、操作説明の「クイック機能から出力する」をご参照ください。 <p style="text-align: right;">< 「OMSS」 ></p>
債権明細に商品を表示できるようになりました。印刷・転送でも商品を出力できるようになります。 【設定箇所】 [請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページの「商品表示」「商品コード表示」 <p style="text-align: right;">< 『債権管理Proオプション』をお使いの場合 ></p>
[印刷の変更]
計行の段数が1段になりました。
《債権伝票履歴》
[印刷の変更]
形式選択に「債権伝票履歴リスト(選択形式)」が追加され、[項目選択]ページで選択した債権伝票の項目を印刷できるようになりました。 【設定箇所】 [債権伝票履歴 - 印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページの「形式選択」
【その他】
「OBCプログラムアップデート」機能を改善しました。 最新プログラムを今すぐではなく後からセットアップする場合は、製品起動時の「最新プログラムのお知らせ」の通知を表示させないように設定できます。 ただし、後からセットアップする場合は、手動でセットアップします。 ※製品ごとに設定できます。 ※設定後、さらに新しいプログラムが公開された際は、通知が表示されます。 <p style="text-align: right;">< 『ネットワーク対応製品』以外をお使いの場合 ></p>
『奉行V ERP8/V ERP』の『債権管理Proオプション』または『債権管理オプション』からデータコンバートできるようになります。

財務会計システム

勘定奉行V ERP10

機能アップガイド

債権管理 Pro / 債権管理オプション

< Ver.3.00 >

変更内容一覧

参考

『奉行V ERP8』（Ver. 2.50）からの機能アップ内容や変更内容が記載されています。

機能アップ内容
【全般】
複数の伝票を集約して仕訳伝票を作成する機能が強化されました。
明細を合算して仕訳伝票を作成できるようになりました。
作成する仕訳伝票上の部門や取引先などのマスターをクリアできるようになりました。
全角／半角、大文字／小文字、ひらがな／カタカナを区別せずにあいまい検索ができるようになり、ヒット率が向上しました。
いままでは、未承認リスト、または承認済リストのレイアウトは固定でしたが、出力する項目を指定できるようになりました。 これにより必要な項目だけをチェックできるようになりました。
【設定箇所】 <ul style="list-style-type: none">・ [債権伝票承認 - 条件設定]画面の[項目選択]ページ・ [入金伝票承認 - 条件設定]画面の[項目選択]ページ
【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
マイナス債務振替、マイナス債権振替で作成した債権伝票、債務伝票を承認するかを選択できるようになりました。 いままでは、マイナス債務の振替、マイナス債権の振替をすると、「最終承認」が付与された状態で債権伝票、債務伝票が作成され、仕訳伝票も同時に作成されていました。 これからは、振替後に債権伝票、債務伝票を承認してから仕訳伝票を作成するかを選択できるようになりました。
【関連メニュー】 <ul style="list-style-type: none">○ マイナス債務振替<ul style="list-style-type: none">・ [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページ 「マイナス債務振替」・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニューで承認○ マイナス債権振替<ul style="list-style-type: none">・ [導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債務基本設定]ページ 「マイナス債権振替」・ [債務管理]-[購入債務処理]-[債務伝票承認]メニューで承認 <p>< 『債務管理Proオプション』『債務管理オプション』を合わせてお使いの場合 ></p>
【導入処理】
《債権債務運用設定》
初期表示伝票区分（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定）を、債権伝票と入金伝票ごとに設定できるようになりました。 これにより用途ごとに、より細かく伝票区分を設定できるようになります。

【債権管理】
《仮受金振替》
振替区分が「4：返金[振込]」が追加され、仮受金の返金分を支払データのFBデータに含められるようになりました。 <『債務管理Proオプション』『債務管理オプション』を合わせてお使いの場合>
《請求先元帳》
以下の項目を出力するかを選択できるようになりました。 「部門」「部門コード」「勘定／補助科目」「勘定／補助科目コード」 ※「勘定／補助科目コード」を個別に出力するか選択できるようになったため、[表示設定]ページの「債権区分／回収方法／科目コード表示」の項目名が、「債権区分／回収方法コード表示」に変更されました。 【設定箇所】 [請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページ 「部門表示」「部門コード表示」「勘定／補助科目表示」「勘定／補助科目コード表示」
いままでは、摘要を出力しない場合でも摘要欄は出力されていましたが、摘要欄自体も出力しないようにできるようになりました。 【設定箇所】 [請求先元帳 - 条件設定]画面の[表示設定]ページ 「摘要表示」
入金伝票を確認する場合は、入金伝票リストのレイアウトで確認できるようになりました。 これにより、250明細を超えて複数の仕訳伝票が作成された場合でも内容を確認できるようになりました。
【随時処理】
Ver. 3.00では、『奉行V ERP8』で搭載されていた『商奉行』との連動機能は搭載されていません。 『商奉行』との連動機能は、Ver. 3.04で以下のように機能アップして搭載されています。
《売上伝票データ受入》
売上区分が「1：返品」の売上伝票を受け入れた場合に、商品の債権区分-返品コード（[導入処理]-[商品登録]-[商品登録]メニューの[属性]ページで設定）に設定されている勘定科目で受け入れられるようになりました。一般商品と返品で勘定科目を分けたい場合などに設定します。
売上伝票の請求先を、債権伝票の請求先として受け入れるかどうかを選択できるようになりました。 【設定箇所】 [売上伝票データ受入 - 受入条件設定]画面の[基本設定]ページ 「売上伝票の請求先を債権伝票の請求先にする」
売上伝票の請求先と同じコードの取引先の主担当者を、債権伝票の担当者として受け入れるかどうかを選択できるようになりました。 【設定箇所】 [売上伝票データ受入 - 受入条件設定]画面の[基本設定]ページ 「請求先の主担当者を設定する」

<p>《入金伝票データ作成》</p> <p>御入金額の集計基準（[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページで設定）によって、作成する入金伝票データの入金金額の集計対象を選択できるようになりました。</p> <p>[債権管理]-[請求締処理]-[請求書発行]メニューの集計対象と合わせて、『商奉行』と連動することができるようになります。</p> <p>※集計基準による集計内容の違いは、操作説明の『商蔵奉行連動データレイアウト』の「補足情報」シートをご参照ください。</p> <p>※『奉行V ERP8』と類似の集計をする場合は、「0：入金情報基準」を選択します。</p> <p>「0：入金情報基準」は[債権管理]-[入金処理]-[入金情報登録]メニューで登録されたステータスが「1：入金」の入金情報も集計されます。『奉行V ERP8』では、消込後の入金伝票が集計されていましたが、消込前でも集計できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[債権債務運用設定]メニューの[請求支払設定]ページ 「御入金額の集計基準」</p>
<p>入金伝票を請求先ごとに集約して入金伝票データを作成するかどうか選択できるようになりました。</p> <p>【設定箇所】</p> <p>[入金伝票データ作成 - 出力条件設定]画面の[基本設定]ページ 「入金伝票を集約する」</p>

その他の操作や画面について、変更されているメニューがあります。
以下の内容をご確認ください。

<p>変更内容</p>
<p>【全般】</p> <p>メニューの名称および構成が変更されました。</p>
<p>【債権管理】</p>
<p>《債権データ抽出》</p> <p>[債権データ抽出]画面の表示形式は、今まで「固定形式」と「選択形式」から選択できましたが、これからは「選択形式」だけに統一されました。</p> <p>これに伴い、債権データ抽出の表示形式（[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページで設定）の設定が廃止されました。</p>
<p>《請求先元帳》</p> <p>取引内容の表示内容が変更されました。詳細は、操作説明の「出力内容」をご参照ください。</p> <p>これに伴い、[表示設定]ページの表示項目、事由表示の項目が廃止されました。</p> <p>いままでは、1取引における明細が複数存在する場合は、諸口としてまとめていましたが、これからはまとめずに明細ごとに出力するようになりました。</p> <p>これに伴い、[表示設定]ページの入金諸口の内訳表示、債権諸口の内訳表示の項目が廃止されました。</p> <p>請求先基準（[請求先元帳 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで設定）で出力する場合は、入金明細ごとに出力して、手数料や郵送料などの付属明細はそれぞれの明細の下段に出力するようになりました。</p> <p>金額が発生していない場合は、0円ではなく空欄で出力するようになりました。</p>

【転送の変更】
合計行と区別できるように、明細の出力開始位置が右に1列移動しました。
いままでは、「入金」の項目に消込状態と入金金額を出力していましたが、これからは、それぞれの列に出力するように変更されました。
《入金伝票履歴》
項目名が変更されました。 債権伝票の「入金済金額」→「消込金額」 ※これに伴い、「入金済金額」の項目には、債権金額に対する消込金額の合計が集計されるように変更されました。
【随時処理】
Ver. 3.00では、『奉行V ERP8』で搭載されていた『商奉行』との連動機能は搭載されていません。 『商奉行』との連動機能は、Ver. 3.04で以下のように変更されて、搭載されています。
《入金伝票データ作成》
消費税差金・消込調整額を1つの明細にまとめて、入金区分「9：その他」として入金伝票データを作成するように変更されました。
回収種別（[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの[基本]ページで設定）が「6：ファクタリング」の入金情報、入金伝票の場合に、いままでは回収方法のファクタリング会社（[導入処理]-[決済方法登録]-[回収方法登録]メニューの[基本]ページで設定）を入金伝票データの請求先としてセットしていました。 これからは、入金情報、入金伝票の請求先を入金伝票データの請求先としてセットするように変更されました。
[入金伝票データ作成 - 条件設定]画面の[基本設定]ページの画面レイアウトが変更されました。
【その他】
各メニューで伝票日付や集計期間を指定する際の指定方法が変更されました。
[債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニューや[債権管理]-[管理帳票]-[請求先元帳]メニューなど、[債権管理]メニューの各メニューで、ジャンプして伝票を確認する際に、入金伝票承認時などに作成した仕訳伝票ではなく、入金伝票の内容を確認するように変更されました。 これに伴い、入金伝票にジャンプするファンクションキーも <input type="button" value="仕訳伝票"/> から <input type="button" value="入金伝票"/> に変更されました。 ※承認時に作成した仕訳伝票の内容を確認する場合は、勘定奉行のメインメニューの[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューなどでご確認ください。

- 複数の伝票を集約して仕訳伝票を作成する機能が強化されました。

○複数の入金伝票や相殺伝票を集約して仕訳伝票を作成できるようになりました。

日付単位／期間単位で複数の入金伝票や相殺伝票を集約できます。

また、取引先／伝票区分ごとに仕訳伝票を作成することもできるようになりました。

※債権伝票でも伝票区分ごとに仕訳伝票を作成できるようになりました。

Ver. 3.04から、部門ごとに仕訳伝票を作成できるようになります。

○[債権債務機能設定]メニューに[仕訳伝票作成設定]ページが追加され、作成する仕訳伝票の設定がまとまりました。

債権伝票を集約して仕訳伝票を作成する場合は、[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページから[導入処理]-[会計期間設定]-[債権債務機能設定]メニューの[仕訳伝票作成設定]ページで設定するように変更されました。

○複数の伝票を集約して作成した仕訳伝票を削除できるようになりました。

いままでは、複数の伝票を集約して作成した仕訳伝票を取り消す場合は、「反対仕訳」で取り消すことしかできませんでした。

これからは、仕訳伝票の取消方法で「伝票削除」を選択して、仕訳伝票を削除して取り消せるようになりました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー

○複数の伝票を集約して作成した仕訳伝票の一部だけを取り消せるようになりました。

仕訳伝票の取消方法に「取消仕訳」の選択肢が追加され、一部の取引だけを取り消せるようになりました。

【設定箇所】

[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[債権基本設定]ページ
「集約伝票の一部取消」

[導入処理]-[運用設定]-[債権債務運用設定]メニューの[相殺基本設定]ページ
「集約伝票の一部取消」

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー

● **明細を合算して仕訳伝票を作成できるようになりました。**

同じ請求先や部門の明細を合算して仕訳伝票を作成できるようになりました。同じ請求先や部門の取引が多い場合に、この機能を利用すると仕訳伝票の明細をまとめることができるため、仕訳伝票や元帳（メインメニューの[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー）を印刷する際に印刷枚数を節約できるようになります。

【設定箇所】

[導入処理]-[会計期間設定]-[債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[仕訳伝票作成設定]ページ 「明細合算」

◀ **関連メニュー** ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー

● **作成する仕訳伝票上の部門や取引先などのマスターをクリアできるようになりました。**

いままでは、債権伝票や入金伝票、相殺伝票と同じ部門や取引先で仕訳伝票が作成されましたが、部門や取引先などのマスターをクリアして仕訳伝票を作成できるようになりました。

勘定奉行でマスターごとに管理しない勘定科目がある場合などに使用します。

※仕訳伝票では「0：その他」のマスターが設定されます。

【設定箇所】

[導入処理]-[会計期間設定]-[債権債務機能設定]メニューの[債権管理]-[仕訳伝票作成設定2]ページ

◀ **関連メニュー** ▶

- ・ [債権管理]-[売上債権処理]-[債権伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[入金処理]-[入金伝票承認]メニュー
- ・ [債権管理]-[相殺処理]-[相殺伝票承認]メニュー

● **全角／半角、大文字／小文字、ひらがな／カタカナを区別せずにあいまい検索ができるようになり、ヒット率が向上しました。**

請求先・商品を検索する場合に、全角／半角、大文字／小文字、ひらがな／カタカナを区別せずにあいまい検索ができるようになりました。

以下のような検索ができます。

▼ **例**

- 「ABC商事株式会社」を「ABC商事」で検索できます。
（全角／半角を区別しません。）
- 「T-Shop株式会社」を「T-SHOP」で検索できます。
（アルファベットの大文字／小文字を区別しません。）
- 「千葉デンキ有限会社」を「千葉でんき」で検索できます。
（ひらがな／カタカナを区別しません。）

変更内容の詳細

- メニューの名称および構成が変更されました。

○以下のメニューの名称と構成を変更

変更前	変更後
[債権業務処理]-[相殺処理] -[債権振替相殺処理]メニュー —	[債務管理]-[購入債務処理] -[マイナス債権振替]メニュー
[債権業務処理]-[相殺処理] -[債務振替相殺処理]メニュー —	[債権管理]-[売上債権処理] -[マイナス債務振替]メニュー

○[承認権限登録]メニューの廃止

※今回のバージョンから[メニュー権限登録]メニューで承認権限を設定できるようになったため、[承認権限登録]メニューは廃止されました。

- 各メニューで伝票日付や集計期間を指定する際の指定方法が変更されました。

The image shows a comparison of two software interfaces. The top interface, labeled '奉行V ERP8', has a checkbox '伝票日付を指定する' which is checked. Below it are two dropdown menus: '月範囲(I)...' and '期首振戻' (with a value of '1日'), followed by a tilde '~', and another dropdown menu '期末整理' (with a value of '31日'). A large white arrow points downwards to the bottom interface, labeled '奉行V ERP10'. This interface also has a checked '伝票日付' checkbox. It shows a date field '2016年 4月 1日', a dropdown menu '振戻', a tilde '~', another date field '2017年 3月31日', and a dropdown menu '整理'.